

| 編 | 集 | 後 | 記 |

観測史上最長の真夏日を記録した、暑い暑い夏も終わり、本格的な秋となりました。「JAMSTEC」通巻第28号をお届けします。

依頼原稿では、東京大学海洋研究所教授の冲山宗雄先生に「世界最深部に魚はいるか」という大変興味深いテーマについてご執筆いただきました。今年の3月に「かいこう」が世界の最深部といわれているマリアナ海溝のチャレンジャー海淵に到達し、遊泳している小さい魚のようなもの（結果として魚ではなく、エビなどの仲間の端脚類とされたが）を観察したのはまだ記憶に新しいものと思います。素人にとって、世界の最深部に魚がいるか、ということは大変興味があります。日本魚類学会会長である冲山先生の結論は、残念ながら、否定的だそうです。しかし、この予想に反する事実の出現も否定されてはいません。「かいこう」のような最新の技術によって、専門家をびっくりさせるのも痛快ではないでしょうか。

研究紹介では、小林研究顧問に「大西洋中央海嶺・ケイントランスフォーム断層西端接合部（WMARK）の総合調査」と題して、昨年実施されたMODE'94計画（MidOcean ridge Diving Expedition）の成果の一部を紹介してもらいました。

海外事情では、韓国の釜山水産大学で開催された、漁業施設に関する国際シンポジウム（FOID'95）に招待講演者として参加した海域開発・利用研究部の岡本主幹に、釜山水産大学、FOID'95、韓国の水産研究などを紹介してもらいました。なお釜山水産大学は、名前と違って、海洋学はもちろん経営学や人文社会学分野をも含む総合大学だそうです。また隣の国である韓国は歴史的にも我が国とは関係が深く、今後の情報交換や研究協力の必要性が感じられたそうです。

深海研究部の松本研究副主幹からは、約15年前に始まるニューカレドニアとの結びつき、北フィジー海盆などを調査した南太平洋研究プロジェクトのこ

と、さらには、北米のニューイングランドから南太平洋のニューカレドニアに向かうこととなった偶然などが紹介されました。なかなか趣のある記事です。

解説では、深海開発技術部の後藤主任研究員が大型海洋観測船について紹介しています。また船が作り出す雑音を減らすための方法が説明されています。

青森事務所開設準備室の橋総括責任者から準備室の活動と下北半島の歴史・自然について紹介してもらいました。なお準備室は、この10月に正式の事務所としてむつ市に開設されます。

研修室からは、今年初めて実施された、高校生を対象としたサイエンス・キャンプの紹介があります。全国から募集によって参加した10名の男女の高校生が「かいよう」に宿泊しながら3日間、当センターの施設を見学したり、研究者などから講義を受けたり、実際に潜水プールでスクーバダイビングを体験したりしました。このキャンプは大変好評であり、読売新聞のコラム「編集手帳」にも取り上げられました。

最後になりましたが、本号の発刊にあたりご執筆・ご協力いただいた関係各位にお礼申し上げます。

（辻）

